

2019年度 サッカー競技規則 主な改正とその解釈

小金井市サッカー協会
審判部

2019年度に改正されましたサッカー競技規則は、小金井市サッカー協会 第4種（ジュニア）では、2020年1月以降の市内大会より適用を開始予定です。

注意すべき改正内容およびその解釈（小金井市サッカー協会4種 審判部会での確認結果）を以下に記載します。各チームにおかれましては、新ルールの周知（コーチ、選手、審判、関係者等）をお願い致します。解釈等に更新がある場合は、都度、連絡を致します。

注意すべき改正点と解説

1. 第3条 交代の進め方

【解説】 ジュニア8人制は、従来と変わらず、交代ゾーンで選手交代する。

競技規則では、退く競技者は、主審から指示され場合を除き、境界線の最も近い位置からフィールドを出なければならない、と改正されている。

2. 第8条 コイントス

トスに勝ったチームはキックオフも選ぶことができる。

3. 第8条 ドロップボール

最後にボール触れられた位置で、最後にボールに触れた1人の競技者にドロップされる。その他すべての競技者は、ドロップの位置から4m以上離れなければならない。

4. 第9条 アウトオブプレー

ボールが主審に当たり、ゴールに入ったり、攻守が変わったり、あるいは、それにより新たな攻撃が始まった場合、ドロップボールとする。

【解釈】 上記のような状況に大きな変化が無い場合はそのままプレーオンとする。

5. 第12条 ハンド

ハンドの反則に関する文章が修正され、“意図なく”ボールが手に当たったときに“反則とする”（反則としないのか）場合のガイドラインがより明確になって、より明瞭で一貫性あるものとなった。

競技者が次のことを行った場合、反則となる。

- 手や腕をボールの方向に動かす場合を含め、手や腕を用いて意図的にボールに触れる。
- ボールが手や腕に触れた後にボールを保持して、またはコントロールして、次のことを行う。
 - 相手競技者のゴールに得点する。
 - 得点の機会を作り出す。

- ゴールキーパーを含め、偶発的であっても、手や腕から相手チームのゴールに直接得点する。

競技者が次のことを行った場合、通常は反則となる：

- 次のように手や腕でボールに触れたとき：

- 手や腕を用いて競技者の体を不自然に大きくした。
- 競技者の手や腕が肩の位置以上の高さある。

（競技者が意図的にボールをプレーしたのち、ボール がその競技者の手や腕に触れた場合を除く）

これらの反則は、ボールが近くにいる別の競技者の頭または体（足を含む）から競技者の手や腕に直接接触 された場合でも適用される。

これらの反則を除き、次のようにボールが競技者の手や腕に触れた場合は、通常は反則ではない：

- 競技者自身の頭または体（足を含む）から直接接触れる。
- 近くにいた別の競技者の頭または体（足を含む）から直接接触れる。
- 手や腕は体の近くにあるが、手や腕を用いて競技者の体を不自然に大きくしていない。
- 競技者が倒れ、体を支えるための手や腕が体と地面の間にある。ただし、体から横または縦方向に伸ば されていない。

【解説】 得点に影響がない事を前提に、意図なく、不自然でない状態であればハンドとしない。得点に影響がなくても、意図的であるか、不自然な状態で、ボールを手で扱った場合はハンドとなる
腕や手を体に密着している場合は、意図的ではなく、不自然でないと言える。ただし、直接得点に影響した場合は、ハンドとなる

6. 第 12 条 ファウルと不正行為

レッドカードおよびイエローカードをチーム役員にもだすことができるようになった。

【解説】市内大会はコーチ 1 人でも試合は成立するが、そのコーチが退場となった場合、試合途中で試合に満たす条件が満たせないため、不戦敗となる。（2 人コーチがいる事が望ましい）

7. 第 13 条 フリーキック

間接フリーキック（オフサイドなど）フリーキックが行われた後、主審は直接得点につながらない事があきらかな場合、上げた腕を降ろして良い。

守備のための壁が 3 人以上で作られた場合、攻撃者は壁から 1m 以上離れなければならない。キック時 1m 以内に侵入した場合、相手の間接フリーキックとなる。

【解説】3 人以上の壁ができた場合、攻撃者は壁の中に入る事ができなくなった。

8. 第 14 条 ペナルティキック

ゴールキーパーは、ボールがけられるとき、少なくとも片足をゴールラインか、ゴールライン上方に置いていなければならない。

9. 第 16 条 ゴールキック

ゴールキックのとき、けられて明らかに動いたならばボールはインプレーとなり、ペナルティエリアから出る必要はない。

【解説】 今までは、ボールがペナルティエリアを出てインプレーとなっていた。ペナルティエリア内でゴールキックからパスをつなぐ事ができるようになった。

ゴールキック時、相手選手は、ペナルティエリア外にいる必要がある。ただし、ペナルティエリア内に相手選手がいる場合でも、それを待たずにゴールキックを意識的に行った場合はこの限りではなく、プレーは継続される。

ゴールキックが直接ゴールに入った場合、相手チームのコーナーキックから始まる事は変更がない。

参照：IFAB Laws of the Games 2019/20 (サッカー競技規則 2019/20)

JFA 2019/20 年の競技規則改正について [19.05.16]

JFA 【別紙 1】サッカー競技規則 2019/20_主な改正の概要 [19.05.16] (添付)

<https://www.jfa.jp/laws/>

以上